



あしたの ひかり Twilight Daylight

日本の
新進作家
vol.17

Contemporary
Japanese
Photography
vol.17

岩根愛
赤鹿麻耶
菱田雄介
原久路&林ナツミ
鈴木麻弓


Iwane Ai
Akashika Maya
Hishida Yusuke
Hara Hisaji
& Hayashi Natsumi
Suzuki Mayumi

2020年
7月28日(火)―9月22日(火・祝)
東京都写真美術館 2階展示室
(恵比寿ガーデンプレイス内)

休館日: 毎週月曜日(ただし8月10日、9月21日は開館、8月11日は休館)

開館時間: 10:00-18:00 *入館は開館の30分前まで

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 東京新聞

助成: 芸術文化振興基金  協賛: 東京都写真美術館支援会員

観覧料: 一般 700円 / 学生 560円 / 中高生・65歳以上 350円

※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料

TOP MUSEUM

事業はやむおえない事情で変更することがございます。
最新情報は当館ホームページでご確認ください。

文化でつながる。未来をつなげる。
THE FUTURE IS ART

TokyoTokyo
FESTIVAL

「日本の新進作家」は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場として2002年より開催しています。第17回目となる2020年度は「象徴としての光」と「いまここを超えていく力」をテーマに、写真・映像をメディアとする5作家6名の新進作家たちを紹介します。

社会の急激な変化の中にあるいまこの時代は、既存のモデルやこれまでの価値観が揺らいでいる時代でもあります。先行きが不透明な時代の中で、いつしか人々が確かな未来像を心に描くことや、大きな希望を抱くことは難しくなっているのかもしれませんが。ときに美術はそうした時代にあって人に光を、さらに複雑な物事を見通す直感的な力や明日への活力をも与えてくれるはずで

「光」は写真・映像メディアの本質要素であるとともに、人々の日常に遍在するもの、また希望の象徴でもあります。本展の出品作家たちは、「光」を重要な要素としているだけではなく、自身を取り巻く世界の在りようについて独自のヴィジョンを持ち、それを視覚作品として私たちに提示してくれます。これらの作品は、ただ現実を鏡のように写し出すだけではなく、いまここにあり刻々と変貌していく世界をどのように感じ取るのかという世界観を表しています。それらは見る人の心に様々に共鳴し、未来への洞察や生きる力を呼び覚ましてくれるかもしれません。

5作家6名の新進作家たちの写真・映像作品を通して、光に満ちつつも不確かでもあるこの世界からその向こう側にある未来へと、いまここを超えていく力を感じ取っていただければ幸いです。

01 | 岩根愛 Iwane Ai

1975年、東京都生まれ。1991年米ベトリアハイスクール留学。帰国後96年に独立。2006年以降ハワイにおける日系文化に注視する。13年福島県三春町に拠点。移民を通じたハワイと福島の間をテーマに制作を続ける。18年写真集『KIPUKA』(青幻舎)を出版。19年第44回木村伊兵衛写真賞、第44回伊奈信男賞をダブル受賞。ドキュメンタリー映画『盆唄』(中江裕司監督作品、2019年)のアソシエイト・プロデューサーも務める。本展では、13年以上にわたって継続する代表作(KIPUKA)につづく、初公開の新作シリーズを展示する。

02 | 赤鹿麻耶 Akashika Maya

1985年、大阪府生まれ。2008年関西大学卒業。10年ビジュアルアーツ大阪写真学科卒業。11年作品『風を食べる』で第34回写真新世紀グランプリ受賞。大阪を拠点に海外を含む各地で個展、グループ展を開催。夢について語られた言葉、写真、絵や音など多様なイメージを共感的に行き来しながら、現実とファンタジーが混交する独自の物語世界を紡ぐ。本展では、子供の時の心とときめきや時空を超えた感覚を追い求める旅を描いた新作シリーズ『氷の国をつくる』を初公開する。

03 | 菱田雄介 Hishida Yusuke

1972年、東京都生まれ。写真家・映像ディレクターとしてボーダー(境界線)が日常生活にどのような影響を与えるかをテーマに、国境や紛争地域を取材したドキュメンタリー写真を手がける。2008年および10年写真新世紀展佳作入選。17年に南北朝鮮の人々を捉えた写真集『border|korea』(リプロアルテ)を発表、コンセプチュアルで象徴的な表現によって大きな評価を得た。本展では、マスメディアの情報からこぼれ落ちる何気ない人物の姿に焦点をあてた映像作品シリーズ『30sec』他、作家が世界各地で撮影したポートレイトを中心に展示する。

04 | 原久路&林ナツミ Hara Hisaji & Hayashi Natsumi

2013年結成。原久路(1964年、東京都生まれ)と林ナツミ(1982年、埼玉県生まれ)による写真家ユニット。2011年以降(本日の浮遊)の共同制作を経て、14年東京から九州へ移住、大分県別府市を拠点に活動。コラボレーション作品を制作、発表する。SNSを中心に発表される『世界を見つめる』は、子供から大人へと成長する過程にある無名の少女たちを被写体として、彼らの自由な行動や発想から生まれるポートレイトと地元・別府の都市風景からなる作品シリーズである。

05 | 鈴木麻弓 Suzuki Mayumi

1977年、宮城県生まれ。出品作品『The Restoration Will』は「復元の意志」の意。ここでは2011年の東日本大震災による津波で被災した故郷・女川町の風景が、写真館を営んでいた実父の遺品レンズを通して写し出される。自身の幼少期の家族アルバムからの傷ついた写真が効果的に挿入されるなど巧みな編集によって作品は強靱なメッセージ性を持っている。17年Photo bookグランプリ受賞(イタリア)、18年PHOTO ESPANA International Photography Book of the Year受賞(スペイン)など欧州の写真アワードで大きく評価された注目シリーズを展示する。



01



02



03



04



05

表: 岩根愛(あたらしい川)より 2020年
01. 岩根愛(あたらしい川)より 2019年
02. 赤鹿麻耶(氷の国をつくる)より 2020年
03. 菱田雄介(border)より 2013年
04. 原久路&林ナツミ(世界を見つめる)より(三つ子ごっこ(めいは、よつば、さくら)) 2019年
05. 鈴木麻弓(The Restoration Will)より 2017年